

SDGs(持続可能な開発目標)とは何か

—— 地方創生 x SDG

持続可能な開発目標(SDGs)とは何か。前身となるMDGsからの背景やその特筆すべきアプローチ、そして自治体との関わりについてまとめていただいた。



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 同環境情報学部教授
蟹江憲史

はじめに

二〇一五年九月の第七〇回国連総会にて、「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための二〇三〇アジェンダ」が全加盟国の賛同のもとで採択された。二〇三〇年へ向けたこのアジェンダの中核をなすのが、一七目標、一六九のターゲットを含む包括的な国際目標「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」である。その基本理念は二つある。「誰一人取り残さない」こと、そして、「アジェンダのタイトル自体にもあるように「我々の世界を変革する」ことである。誰一人として取り残されない、どの自治体も取り残されない、そしてどの国も取り残されないで成長する世界を実現する。そのためには、

の関心が日に日に高まっている。昨今の企業の社会貢献活動の報告書などを見ると、至る所でSDGsの華やかなアイコンを目にする。

SDGsが誕生からまだ二年しか経過しておらず、今はその普及段階にあることを考えれば、それ自体は決して悪いことではない。むしろ、筆者など、二〇一一年に最初にSDGsの提案がコロンビア政府によって提示されたところからSDGsを見続けているものからすれば、二年間でこれほどまでにSDGsが普及されるようになったことは特筆すべきであり、大いに喜ぶべきことである。元国連事務総長のSDGs特使であり、現在には国連副事務総長を務めるアミーン・モハメッド氏は、SDGsが合意に至った二〇一五年当時、最初の四〜五年はSDGsの体制を整えるためのスタートアップ期間だと発言していた。まだまだ助走期間である。

しかし、SDGsの本質がガバナンスの変革にあるということとを鑑みると、今の活動状況は物足りなさを感じざるを得ない。

かにえ・のりか

専門は国際関係論、地球システム・ガバナンス。二〇一三年度から二〇一五年度までは環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-1「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト」プロジェクトリーダーを務めた。SDGs研究の第一人者であり、研究と実践の両立をはかっている。国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)シニアリサーチフェロー。日本政府SDGs推進本部円卓会議構成員、内閣府自治体SDGs推進のための有識者検討会委員を務めるなど、国際的、国内的にSDGsや環境問題を中心に多方面で活躍中。

今の世界を大きく変革する必要がある。こうした危機感が、SDGsを支えているわけである。すなわち、ローカルから出発し、グローバルなレベルに至るあらゆるレベルでのガバナンスにおける変革こそが、SDGsが狙いとしているところである。目標は世界で共有しながら、その実施方法は極めてボトムアップで、テラーメードで策定していく。こうしたボトムアップの目標達成へ向けた取り組みの成功事例を積み重ね、スケールアップすることで、持続可能な未来を実現する。そんな新たなアプローチが生まれてきたのである。

採択から二年余りが経ち、SDGsへの関心は多くの国で高まってきている。とくに日本国内での急速な関心の高まりを筆者はこのところつとに実感する。とりわけ地方自治体や企業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

SDGsの華やかなアイコン(8頁のカラー版を参照)